

日刊 磐城時報 編輯部 石城郡平町紺屋町十四 印刷部 石城郡平町紺屋町十四

最高は佐藤氏 落選は氏家氏か

二十一日開票された石城郡並に相馬郡北部の結果によれば四候補の得票数は 一三八〇六 鈴木辰三郎 一〇三四 佐藤庄太郎 一五四六九 比佐昌平 四三八九 氏家清

石城の政友派得票 一二萬票を突破す

之に二十二日開票さるゝ又相方の豫想得票を加ふれば鈴木氏一萬五千、佐藤氏一萬八千、比佐氏一萬六千、氏家氏一萬三千となり最高は佐藤氏で氏家氏は第三區の開票は平、植田、小川人々が寄り集り結果如何と首を

午後三時の各候補得票

第三區開票結果

(有権者数と得票数の差は失格及棄権、無効投票)

Table with 7 columns: 町村, 有権者, 鈴木, 佐藤, 比佐, 氏家. Rows include 石城郡 and 相馬郡 with various sub-locations like 町内, 好赤, 永戸, etc.

商校志願者 二百余名位か

平商業學校で今年度の入學試験を三月二十七、八の兩日施行するが今年と同様百名を募集する豫定であるも志願者は依然二百名を下るまいと観測してゐる。

Table showing candidate names and vote counts for specific areas like 平開票區, 神谷, 飯野, etc.

棄権率

石城郡各町村に於ける棄権率は左の如く合計三千五百七十八名から平窪村大室に通ずる夏井川に對し九分九厘で前回選挙と同に架してある木橋は洪水毎に押

容易に動かし得ざる 比佐氏の絶対多數は 佐藤氏の絶対多數は 有権者の同情によるもの

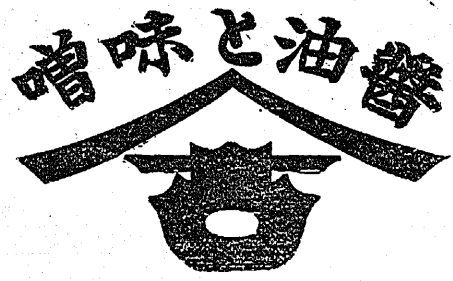
本炭組合で 未納金整理

濱三郡木炭同業組合では年度末を過ぎ組合分賦金の未納整理に腐心してゐるが現在五年度六千五百圓の多額に達してゐるこの分賦は組合の生産販賣業並に販賣業者から一圓宛を徴収してゐるものであるが同地方木炭界は大いに好轉してゐるにも拘らず右の如き滞納額があつては理事者は極力納附の促進を圖り一面これを怠慢にする如き組合員に對しては漸平たる處分を決定する方針である。

児童の凍傷

各小學校児童は俄の寒氣襲來で凍傷患者續出し學校當局でも豫防に腐心してゐるが殊に第二校が甚だしく重患者五名輕患者七

總合計 15094 17651 15957 10838



山崎台名會社

電話(營業部専用)一〇番
電話(一般用)二七番
振替東京一九七五番

明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

レコード破りの石炭大特賣

磐城炭礦二等炭

正味十貫匁一俵金卅錢也

「品が良く」「値は安く」をモットーとする當店は
此度超破格の格安石炭を販賣開始致します
値が安くとも品は悪くはありません
磐城炭礦の處分の大堀出物です、品物の無くならない
中に御注文下さい
配達は一俵より致します

御注文は

電話二三七番へ

平 停車場前

阿部石炭商店

家庭の防火設備

猛火でも
忽ち消ゆる
粉末消火器

使用輕便、價格低廉、効力偉大

平町四丁目

小野屋藥局

電話百四十四番

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

諸橋久太郎
電話九九九番

外科 一般外科 内臓外科
性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)

元赤心堂病院跡

安齊外科醫院

電話四七五

かまぼく製造

折詰仕出

平町一丁目

お惣菜用
さつま揚
吉原揚
藤寅
電話一四一番

貸切御用命

ゼヒ 三井自動車部へ
電話六八五番

乗合は 好間・合戸・澤渡方面行

大歳大巨免許
磐城無盡
共信共栄
電話 七〇一

腸胃 専門 内科
十二指 腸胃病
湯村松
電話 七〇一

蓄積安心 融通便利
三車無盡
大歳大巨免許
湯本信用無盡會社
電話 四七〇番

謹啓
瑞法院葬送の際は遠路、處御會葬被成下
且つ御鄭重なる御香奠を賜り御厚志の段
有難く奉深 候拜趨御禮可申述の處乍略
儀以書中御禮申上候 敬 具
昭和七年二月二十一日
石城郡平町二丁目
嗣子 遠藤市松
親戚總代 遠藤勝馬
鈴木辰次郎

「アンカ」コタツに徳用な
木炭 代用 たどん

平町古銀冶町杉ノ澤
鈴木炭團製造所

製造元 平町二丁目(警察署通り)

卸小賣所 魚清氷卸部
電話四六七番

尙氷の御注文モ電話四六七番へ

平町田町(電話五二三番)

高久病院

醫學士 高久忠
新瀉醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

吉田眼科病院

平町紺屋町 電話六八番